

平成29年度第1回

香美市総合教育会議議事録

日時 平成29年5月26日  
午前10時00分 開会  
場所 香美市役所3階会議室

山中総務課長 定刻が参りましたので平成29年度第1回香美市総合教育会議を始めたいと思います。初めに市長のあいさつからよろしくお願いします。

法光院市長 おはようございます。平成29年度第1回香美市総合教育会議が開催いたしますところ、皆様には大変お忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。委員の皆様におきましては、図書館の建設とか、鏡野中の武道館、プールの建設などにおきまして大変ご心配をおかけしておりますが、それぞれの担当課におきまして、建設に向けて鋭意進めておりますので今後におきましては着実に前進するものと確信しておりますのでどうぞよろしくお願いします。

学校におきましては、運営の改善とか、学校の施設では空調、あるいはトイレの整備とか、課題が山積しております。また放課後児童クラブの施設の整備や生涯学習の充実など、急がなくてはいけない課題などございます。委員の皆様には、今後一層力添えを賜りますようよろしくお願いします。本日は香美市教育大綱について皆様方のご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いします。簡単ですが、開会のあいさつとさせていただきます。

山中総務課長 ありがとうございます。お手元の方に資料をお配りしております。本日の議題として「香美市教育大綱について」、そして「その他」となっております。香美市教育大綱についてはまず進捗状況について学校教育、幼保、生涯学習の説明をしていただき、そののち、「将来の香美市の姿について」子どもの姿、大人の姿などについて皆さんに意見をいただいて後期の教育基本計画に反映させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。それでは、議題の方へ移らせていただきます。まずは「進捗状況について」と言う事で、まずは学校教育から説明をお願いします。

上村主監 多くの事業を持っていますが、ピンポイントで説明をさせていただきます。「キャリア教育の推進」と「IT教育」、「外国語教育」その3つについて説明させていただきます。資料6ページの下方に「キャリア教育の推進」が示されていますが、ご存じのとおり香美市のキャリア教育というのは「よってたかって教育」というのが非常に根付いてきたというところになります。先日、教育関係から「よってたかって教育とは何か」「この言葉はどうやって生まれたのか」という電話がかかって来ました。キャリア教育の委員さんと「キャリア教育」という言葉よりも一般にも分かるように生まれた言葉です。

キャリア教育の主な大きな事業として、中学生を対象とした「キャリアチャレ

ンジディ」や、小学生対象の「キッズチャレンジディ」があります。地域の方々が存分に活かした活動として続けられていると思います。今ではこの2つの教育が定着して「キャリアチャレンジディ」にも150人を超えるボランティアにより支えられております。地域の方々を巻き込んだ「よってたかって教育」が展開されていると思います。一方、地域の方々を巻き込んだ教育ももちろんですが、学校教育9年間を見通したカリキュラムの作成も進めているところです。「カリキュラムマネジメント」と言われておりますが、教科横断、PDCA、地域資源の活用、こういうものをしっかりと徹底を図ってバランスの良いキャリア教育を根付かせていきたいなと言うふうに考えております。

ここについては非常に前に進んでいる所ではありますが、まだまだこれから発展するということで、内部評価をこのようにつけさせて頂いております。これからの「香美市の教育」の中核になる活動であるにとらえております。

続きまして、「ICT情報教育」を説明させていただきます。資料は11ページをご覧ください。「ICTの機器整備」につきましては、各校にパソコン、電子黒板等の整備を十分にさせていただきありがとうございます。現在のところ今年の夏あたりで10校中9校が無線環境の整備であったり、タブレットを配備する予定としております。来年鏡野中を最後にしてすべての学校と整備計画を計画通り行っております。タブレットなど一般に普及されているものなので、学校教育などでも積極的に活用していきながら子ども達の学習にしっかりとつなげていくと大事だと考えております。

なおここには書かれていませんがICTの支援員を雇うようにしていただき1名、5月1日から配置しております。各学校の整備の様子を知ってもらいながら、学校のサポートに入っていく、すでに学校からサポートの依頼が入ってきているようなので、非常にニーズの高いポジションになってきていると思います。ハード面と人的な面をここで進めていきたいと思っております。

「情報モラル」ですが、学校の方でSNSや、情報機器をうまく使えないなどあるので学校の方で講習会など行いながら、すべての学校が行っております。現在はPTAを中心に「香美・香南」でネットの使用方法などチラシを配ったり、アンケートを取りながら、保護者も巻き込んだ動きになっています。

「情報リテラシー」どのくらいの力を持ってできるかという事ですが、情報の技術自体は上がっているのですが、まだまだと思っております。現在のところ「児童・生徒に関心を持たせる機器の使用ができる」と言いきっている先生は22%です。その方々は、学校でのリーダー的存在にもなってくると思うのですが、そういう先生を増やしていきながら29年度には30%に増加させたいと思っております。

支援員ももとより、工科大生とのサークルの方と接触を持っています。大学生と接触持ちながら、サポートはできないものかと探りを入れていまして、学校の方にも大学生とのつながりを進めていきたいと思っています。

最後の「外国語教育」ですが、12ページの下方にあると思いますが、大きな躍進の年として「待ったなし」の取り組みを進めております。

2020年から新学習指導要領スタートして小学校3、4年生での外国語活動であったり、5、6年生の英語の教科化になるのですが、本市では前倒実施して取り組みを強化しています。今現在小学校の方でも1時間プラスして、英語実施をしています。ALT8名、外国語指導補助員大幅な増員で小中学校、保育園にまで配置ができています。教員につきましては、先進校の視察研修、市内の研修会を充実させております。

今年度から県のコア・エリアの指定を受けて小中学校はもとより、山田高校、工科大とも連携した会の実施をスタートさせています。また姉妹校として、オーストラリアのイマニエルプライマリースクールとの子ども達の交流も今年度からスタートさせようと準備をしております。

中学校の英検の3級程度の実力の取得は38%程度です。県の取得率より若干多いですが、他の市町村ではそれ以上のところがあるのでそういうところにも追いつきながらしっかりとやっていきたいと考えている所です。

30年度末の到達目標で「外国語を学ぶことが楽しい」小中とも80%以上という事で示されてますが、実は「英語が好きですか」と「授業が好きですか」という問いに小6は84%でクリアできているのですが、実は中2で58%と言う事で、目標にはほど遠い結果となっています。

また、学年が向上すると、この数値が下がってきているという事でここが、大きな課題になっています。県指定でも小学校高学年の強化科目が指定授業の中でも小学校高学年の教科化を見据えた実践、研究を進めてまいりたいと思います。達成目標に近づけるように今後も取り組み強化していきたいと思っています。学校教育は以上です。

山中総務課長 はい、ありがとうございました。

それでは続きまして幼保支援の説明をお願いします。

横山教育振興 資料4ページの「香美市子ども・子育て支援事業計画の実施」についてです。

課長 香美市子ども子育て支援事業計画の実施で、28年度実施予定でありました片地保育園の「0歳児保育」の受け入れは昨年度当初は申し込みがなかったため28年度は実施しておりません。29年度につきましては、片地小学校保育園で3名、新改保育園で2名0歳児の受け入れが実施されております。

事業実施において、保育士や、調理師の人材確保が課題となっておりますが、ニーズに対応するため、事業の拡大、ファミリーサポートセンター事業の計画に沿った取り組みを進めていきたいと考えております。

次に資料では8ページ、2番目以降が、子ども子育て支援事業の計画に基づいた事業となっております。2番目の「子育て専門家支援家庭支援推進事業」ですが、支援を要する子どもや、家庭に対して特別支援保育コーディネーターや家庭支援員による相談や支援を行うものです。

現在、特別支援コーディネーター1名、なかよし保育園、あけぼの保育園に家庭支援員を各1名配置しております。

特別支援コーディネーターについては保育士のスキルアップや保小中の連携なので大きな成果が上がってきていることから、2名体制を目指しておりますが、適任者の確保にいたらず現在1名と言う事となっております。

コーディネーターの積極的な支援より成果が上がっておりますが、1名体制では限界がありますので、人材確保が必要となっております。

また家庭支援員業務の保育士につきましても専任としての配置ではないので家庭支援に専念することが困難ですので課題となっております。

専任家庭支援員を全園への配置やコーディネーターの増員により子育ての悩みや特別支援に関する相談活動の充実、支援の必要な子どもや保護者への適切な支援を行う体制を整えていきたいと考えております。

3番目以降につきまして主に子育てセンターで実施している事業となっております。3番「子育てひろば」ですが、子どもの遊びを見守りながら子育て中の親子の交流と保育士相談や育児情報の交換の場、リフレッシュができる場として子育て支援センターでの子育て広場、保育園での園庭開放など実施しております。

子育て広場は平日、月曜から金曜に開催し3月末までの利用者数は子育てセンターなかよしの、なかよし広場は240回開催で3,368人、子育てセンターびらふの、にこにこ広場は3月末で239回開催で1,305人となっております。利用者は年々増加し28年度は27年度に比較して26.6%増のセンター開設以来最も多くなりました。アンケートでは「広場の行事が楽しかった」「親子同士の交流ができて良かった」などの声が多数寄せられております。

今後も子どもの発達や年齢に応じた遊びや子育ての知識を提供すると共に保護者同士の交流を促しながら、広場利用者の満足度向上に努めていきたいと思っております。

9ページの6番「子育てに関する講習会」がございます。

この講習会も広場を活用する形で実施されておまして、具体的には助産師による「親子ふれあいマッサージ」や「小児科医等による子どもの病気に関する

講演会」「歯科衛生士による歯に関する講座」「栄養士による食育講座」幼児体育などイベントを開催しております。

8ページの4番「子育てに関する相談・援助」子育て広場で子どもの発達やしつけなど、子育てに関する不安や悩みなどについての相談を電話や来所で随時受付をしております。また保健師や栄養士、保育士等、専門スタッフによる育児相談を実施しております。子育てセンターなかよし、びらふと大柵保育園での園庭開放での一定相談利用者数は3月末なかよしが216人、びらふが85人、大柵保育園9人となっております。また月1回、産前産後の親子を対象に助産師など専門職による産後サポート事業「ママのサポートルーム」を開催し3月末までに12回開催で34組の親子の参加があります。

子育てセンターを利用していない家庭を対象とした保育士による訪問も行っておりまして、これが18件となっております。

子育て家庭の孤立化を防ぐための支援と育児不安の経験の多様化する相談を適切に対応できる体制を作り関係機関との連携強化が必要となっております。

保育士による訪問支援は子育て広場や、育児相談の利用に重なっております。より多くの方が利用しやすいよう見直し改善を進めていきたいと考えております。

次に、9ページの8番になります。

「一時預かり」についてですが、これは子育て広場と並んで子育てセンターの主要な事業となっております。

内容としましては、家庭で育児をしている、保護者の急病や短時間勤務、また買い物やリフレッシュの負担を軽減するため日中一時的な預かり保育を実施しております。子育てセンターなかよしと子育てセンターびらふで平日に実施し保護者のニーズに対応できるよう体制を整備しています。保護者と関わりながら預かり児の心身の発達と発育を促すよう支援を行っております。

利用者数は3月末でのべ1094人で27年度929人から165人の増加があります。課題といたしましては、子育てセンターなかよしでは、利用希望者が増加し利用できないケースが出ているという事がございます。

利用者の様々なニーズに応じて様々な体制に応じて受け入れができるよう体制を整えていきたいと考えております。

9番は「マタニティママの集い」というものもやっております。

この事業は、妊婦とその家族を対象にして、妊娠中の生活や出産、育児に関する知識を学び利用者同士の交流を促すことによって、安心して子育てに臨める講座となっております。

子育てセンターなかよしでは年3コース、行っておりまして保健師、助産師、栄養士などの専門スタッフによる講話と実技を実施しております。28年度に

においては、前期コースが13人、中期コースが16人、計29人の参加があります。少子化、核家族化などによって子育てに関する知識を得る機会が減少して家族の支援が受けられない子育て世代が増加する中で妊娠期間、子育て支援が重要となっておりますので、適切な時期に受講できるようコースの設定を行い利用者増を図っていきたいと思います。

10番の「子育てサポート体験」これは、将来親となる高校生を対象として主にふれあい体験をしてもらうというものです。山田高校3年生で福祉とか保育、子育てに関心がある生徒や保育士を目指している生徒を対に夏休みを利用して実施しております。28年度は夏休み前に、山田高校で説明会を開き夏休みに入ってから、保育園見学や子育てに関する講話、親子との交流、絵本の読み聞かせなど体験を実施しています。なかよし広場では計7回を実施し17名の参加、にこにこ広場では2回実施し実18名、述べ20名の参加がありました。体験などを中心に回数をして複数回の体験もできるようにしたため27年度より増加しています。高校生に保育や子育てに関心を持ってもらうのは大事なことであり保育士などを目指す生徒の動機づけにもつながりますのでより多くの生徒に参加してもらえような事業にしていきたいと思っています。

以上、子育て支援、親支援、子育てセンターの事業について報告させていただきました。

山中総務課長

ありがとうございました。

続きまして生涯学習の説明をよろしくお願いします。

岡本生涯学習  
課長

生涯学習振興課から資料14ページの「芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進」のうち、公民館と公民館に関連する15ページの「公民館活動の活性化」についてと15ページの「図書館活動の充実」について説明させていただきます。中央公民館は生涯学習の拠点施設として、市民セミナーや市民大学、子ども教室など開催し地区公民館の連携をはかりながら各種サークルの活動場所として、提供を行いつつ文化芸術の活性化を目標に掲げ各教室の活動に対して支援を行っています。

次に主な活動におきましては、文化協会に加入している多種多様なサークル、舞踊関係、茶道などの中心とした利用に加えて香美市の主体事業として取り組んでいます、人材バンクを活用した新たな活動に対しても使用料一部軽減を行うなど支援を行い、施設活用の促進に努めております。

また事業の成果につきましては人材バンクへの登録は行動実績に記載のとおり、工作、茶道に始めとして多くの分野で登録者を募り20名の目標に対して22名の人材を確保することができました。また市民セミナー、子ども教室に

においてそれぞれの専門分野を活かした指導を行っていただく中、成人向けのパソコン教室、英会話教室は参加者から高い評価を受けております。

次に課題につきましては、文化協会加入のサークルや地域活動においては高齢のため活動中止を余儀なくされる団体等も出ております。今後はこのような団体等に対して、活動の計画を行う支援対策が必要であると考えます。今後、社会教育施設が生涯学習課の拠点として芸術文化活動等の促進を図るためには、子どもから高齢者まで参加できる幅広い充実したサークル活動の継続が重要であります。そのためには、人材バンクの登録者の増員、確保を図ります。また、高齢化のため、休止を余儀なくされる団体等へ対する取り組みは重要であり、若者を含む市民がそれに対して興味を持ちサークルに入る為の環境作りに取り組みます。その中で特に地区公民館を有する地域においては過疎、高齢化が進み、地域における人のつながりや連帯感が支え合いの意識が希薄化し、伝統的な地域コミュニティの低下が懸念されます。このような社会情勢の中地域住民が最も身近な公共施設である地区公民館を生涯学習の拠点的施設として、また子どもから高齢者が集い触れ合う事ができる地域コミュニティの拠点施設として活用し市民と行政が適切な協力関係を構築しつつ新たな事業展開を図っていくことが今後の公民館のあるべき姿だと思います。

次に5番目図書館活動の充実につきましては、地域、学校等と連携し子どもの読書活動の推進や課題解決のための、支援を行う図書館として資料の収集、保存、情報の発信を行っています。

また、障害の有無や年齢を問わないサービスの提供読書ボランティアとの連携もやっております。

主な活動としましては、保護者に図書館に接する機会を作り、参加者や利用者をつなげるために3館合同と図書館まつり英語で楽しむライブラリコンサートなどのイベントに加え、子ども達に図書館の利用の仕方や子ども司書養成講座を開催し子ども達が本に親しんでもらうための活動を行っています。

成果につきましては、香美市図書館のマスコットキャラクターを募集したところ北海道から沖縄まで全国から630点余りの応募があり予想以上の反響でその結果「かーみーちゃん」が誕生しました。

現在図書館のイベントや広報で活躍しています。

また3館合同図書館まつりスペシャルではプラネタリウムや子ども司書によるパネルシアター、高知工科大生による工作教室などを行い約200人が来場しました。更に一般向けのイベントとして本の装備教室の開催や大活字本設置コーナーを設置したところ好評を得ています。

子どもの読書活動の実践図書館として文部科学大臣賞に平成29年4月に受賞しました。これは子ども司書などの活動を認められての受賞です。



課題としては、分館の図書館の来館者、利用者の減少が見られます。学童クラブの移転により児童の来館者が少なくなったことが要因の一つであることが考えられます。またヤングアダルト、中学生、高校生の資料コーナーを設置し資料の公認行っていますが、分館だけでなく本館も貸し出し数が少なくなっています。引き続き図書館に親しみを持ってもらうよう創意工夫が必要であると思います。

活動とは別に香美市立図書館は平成10年に旧土佐山田郵便局を改装し開館していますが、この建物が昭和40年に建てられ、50年が経過し老朽化が進み、修理箇所が増加しています。また蔵書や、駐車スペースが不足しているなどの問題を抱えて運営している状況であります。香北町アンパンマン図書館も同様です。美術館においても作品数の増加により収蔵庫のスペースが不足し適正な管理ができていない状況です。これからの理由により新図書館は収蔵庫の併設を予定しており、早期の建設が急がれるところです。

最後に今度新図書館があるべき姿とは、市内の3つの図書館、小中高の図書館、工科大の図書館との連携をさらに強化し充実した機能整備を確立させることが、大変重要であることが考えられます。また新図書館は資料の収集や情報の提供だけでなく市民の生活や仕事または地域の抱えている問題の解決に向けた支援や、人と人を結びつけるなど市民の憩いの場と交流の場と利用するのが求められていることから、地域を活性化させる街づくりの拠点としたいと思えます。以上です。

山中総務課長

ありがとうございました。

学校教育、幼保支援、生涯学習それぞれより報告がありました。

学校教育は、キャリア教育の推進と言う事で「よってたかって教育」を推進しているという事で、中学生の「キャリアチャレンジデイ」「キッズチャレンジデイ」等の取り組みをしている、またICTの整備とかソフト面での外国語教育を含めて取り組みをしていくというような報告がありました。

幼保支援では、子育てセンターでの子育て広場や一時預かり事業がなかなか好評で利用者増で利用もなかなかできないという方もおられるという話もありました。生涯学習では中央公民館での活動の現状と言う事で高齢化によって活動が停滞しているという報告が出ています。あと、図書館についての報告がありました。それでは、ただ今から自由に発言をおねがいたします。

浜田委員をお願いします。

浜田委員

教育委員とは別として、いつも職員に言っているのは環境を整えることです。

なにかをするにしても、道具とか、施設とかそういうものがない限りは「こういう事をやったら」と言ってもなかなか一歩目へ踏み出すことができない。

まして、英語教育なども大学でいえば、英語教育は大学院入試をとると、10年以上前からTOEICを当たり前に活用されて工科大の場合は初めからTOEICの試験を受けるように年に3回ぐらいはやっています。

本来7, 8, 000円ぐらいかかるところを3, 000円弱でやっています。今からは、民間を使った試験になってきますよと言っていたら、案の定文科省がそういう形になってきたという事で今度は高校が変わってくる、そうすると手前も変わってくると。

英語の長崎先生をトップとして、地域教育高度化研究施設を設けています。地域教育全般をやるのですが、とりあえず英語を特化してバカロレアの国際高校担当の教頭を客員教員として、教育振興課の田村先生を客員研究員にして香美市の教育を高度化していろんな角度から支援できるような形を取っていこうと一つの環境作りと思います。

生涯教育にしても、市長にお願いする部分もあるのですが、工科大では「佐岡プロジェクト」という佐岡と交流していろんなことをしています。

工科大が古民家を買って、学生たちの研究、その他の事をやっていきます。合わせて永年環境づくりをしています。佐岡小学校がコミュニティセンターになっているのですが、その2階がほとんど使われていません。これをぜひ、コミュニティセンターだが、学校として大学で何かをやっていきたいと。その一つが、佐川町で行われている「さかわ発明ラボ」、ものづくりなどを地域とやっていこうとしています。市長がものづくりを提唱していますから、「ものづくりラボ」的なものを、工科大を含めてやっていきたいと考えています。

これも一つの環境づくりで、『香美市のものづくりの拠点はどこですか』というとき、公民館活動がそういうのと一緒になってくると思うが、そうすると香美市で技術のある方やお年寄りの方がきてやっていると、言葉よりも実際の環境を作ることによって、それを外に出すことによって、「香美市はこうなんだ」ということが分かり人がよってくる。子育てもそうですが、今香美市に人がよってくるのは、地震があってもここならしっかりしていると、そして教育もやり始めた、安心して生活できるという事で外に発信できていることがあります。そういう環境があると人は「何だろう」という形で集まってくると思います。これは移住定住に関わってくるのですが、そういう部分で環境作りをしていただきたいなと思います。

すか。

浜田委員 不特定多数が使用することができないため提案しているのは2階の部分は元は学校だったので学校施設として大学に貸与してほしいです。

山中総務課長 企画財政課におりましたので、その辺の経過を説明させていただきますと、2階については防災対策と言う事で防煙、防火の設備が必要だという事が1点、それをすれば不特定多数の人が2階を使用できます。あと、佐岡地区協議会の方がコミュニティセンター内で農家食堂みたいなものをやりたいという話があるのを聞きましたが、そこに埋めてある合併浄化槽の基準が小さすぎるので浄化槽を変えなければならないという事があります。将来的にその地域がどういう事をしたいのかはつきり定まらないと行政も支援ができないというところで話が進んでいません。

浜田委員 少なくとも、2階の部分を学校指定してもらえば今までどおり使えるのではないのでしょうか。不特定多数が使おうとするからそういう事が法律上必要になってきます。そこを考えてください。

山中総務課長 地元の協議会と市と工科大の協議によりコミュニティセンターがあそこに出来たというわけですが、それからもう一步進んで2階を工科大のサテライトオフィスの使用となるとまたそれはコミュニティセンターとして使えるかどうかという事になりますので、地元と大学と市の方で協議する必要があります。

法光院市長 関係者を集めて、できるだけ早く協議してください。

山中総務課長 バカロレア教育、ものづくりラボ、ソフト面、ハード面、「環境」を充実させることにより人がよってくる魅力的な香美市になっていくのではないかというお話でした。他にございませんでしょうか。

西委員 私の子どもが西高の英語科に入ったので、私自身も英語を勉強しなくてはと思いながら、西高の教頭先生や校長先生とお話しする機会があり、お話していましたが、香美市はALTなど学校に入れて高知県の中でも英語教育に力を入れている所ですねと教頭先生から話していただいて、南国香美香南の方は最先端を行っているかのように、高校の方も認識を得ているようで、実際ALTがたくさ

ん入っているというのも、香美市に住んでいたら当たり前のように思っていたのですが、他のところから見ると羨ましい環境であるのが分かって、上手に勝代していきながら、子どもの英語力もあげていけたらなと思っています。今年、初めて子ども達がオーストラリアの方へ行く機会を設けていただけるような形になっているようですので、これが先々途絶えず行き来できるような交流ができたり、学校側に留学生が受け入れるような体制ができると、より多くの子ども達が英語に接する機会が増えていくのではないかと思いますので、実際に「触れる」という事が子ども達が「もっと勉強したい」と思うのではないかと思います。そういう機会を香美市としても増やしていけたらなと、すごく思います。自分がお金を出して海外に行こうとすると、今の家庭状況から考えるとなかなかそう家庭状況から考えると、沢山の人は手が上がらないだろうと思いますので、「受け入れる」と言うことであれば、もう少し多くの人を受け入れられるのではないかと、そういう両方の面を発展していけたらなと思います。

時久教育長

まだはっきりとした事はいえないのですが、オーストラリアへ子ども達を派遣するというのは、急に言ってもいけないので11月ぐらいなので、夏が近づいて来た頃に募集をかけようかなと年度当初から計画はあるのです。

急に言うとは困るかなという事で、春にオーストラリアへ子どもを派遣するという事と、積丹へ冬行くという事だったり、KYO子ども祭りを9月に山田高校の文化祭のところへ行ってやらしてもらおう事だったりいくつかを出して、こういう事で年度内でかけて、PTAの会で周知したり、学校を通して家庭に配ってもらったりして渡してあります。

ここからはっきりしない話なのですが、オーストラリアに行く事に関しては問い合わせがぼつぼつやってきています。

お金は全部出しかまわないので、とにかく行きたいですという熱烈なお願いや、中学生はいけるのかとの問い合わせや小学生は10人程度となっているので小学校と中学校が行くのならみんないけるようにしてくれるのかとの事が、募集前からパラパラ来ており、これで募集が始まった時にどうなるのか今から教育委員会でできどきしています。

たぶん、23年度までラーゴへ隔年で行っていた時に10人の募集に10人以上の応募が来て引率が十分できなかったらいけないので10人できたら、かなりショックを受けた子ども達がありました。だから今年是一回とりあえず連れて行くという事になったのですが、人数が心配という事と、英語に関しては非常に大人も子どもも保護者、地域の人も香美市の人の関心も高くなっている所以この外国行きについては今後検討をしていかなければならない要素があると思っています。

その時にオーストラリアで開拓しようという話はできているのですが、ラーゴの方もこの6月に高校生が山田高校にやってきます。交流も色々できる機会はあるのですが、ぜひ、市でやっている交流に安心感があるので行かせたいという事で、今後工夫が必要な課題です。

山中総務課長 ありがとうございます。英語教育の事でオーストラリアの交流事業を今年から始めるという事ですが、募集人数について大変危惧されているというご意見が出ました。この事についてご意見はありませんか。竹平委員どうぞ。

竹平委員 計画書が「実施できる」計画書としてもらいたいです。実行できる事を最終目的にしてその途中のプロセスを大切にやっていくという事で動かしていただきたいと思います。

今日のポイントでいえば、子育てであったり、図書館であったり、ICTなどありましたが、いずれも共通しているのは「市民の協働」があればうまくいくのではないかと思います。これを念頭におきながら進めていってほしいと思います。資料の中に「後期・香美市教育振興計画策定業務スケジュール」の中にアンケート実施が盛り込まれています。

市民の皆さんからいろんな意見や感じた事をこれに載せ、そして意見を計画に反映させていただくと思いますので行政の計画と、市民の感じている事を吸い上げ双方向で進めてもらいたいという事と、市民からの要望に向けてあらゆる限りの方策を講じて実現性を探っていただきたいと思います。

山中総務課長 後期の香美市教育振興計画についてのご意見でした。教育長の方から今後のスケジュールの事など説明をお願いします。

時久教育長 今日の議題にありますように、「香美市教育大綱」と「香美市教育振興基本計画」この2つは別ではなく、今は振興基本計画を大綱にみなすという事で、教育振興基本計画が10年計画の4年目になりました。当初から十年間の計画は、中で調整が必要だろうという事がありましたので5年たったら後期は見直しで後期計画を策定していこうと当初から話されていました。平成29年から二カ年をかけて、スケジュールにある通り、まずアンケートを取ってその分析に基づき検討委員さんを募り検討をしていただいて、後期の策定をしていこうという事で進んでいきます。主に29年度はアンケートの実施と検討して行くという事で、30年度の前半で文章表現も含めて策定作業に移っていこうという計画で進んでいきます。30年度の終わりから31年度から使う後期の計画を完成させていきたいというスケジュールです。

その間に関連会議として、総合教育会議を臨時で必要になるかもしれませんがご意見を聞きながら進めていきたいという計画です。

ぜひとも提案したいのが、今は可能と言う事で大綱と振興基本計画を同じものでやっていますが、新しくできる後期の計画は平成35年まで続くものですから、後期を策定する時に教育大綱も同時に作りたと思います。本来なら大綱があつて、大綱の内容を受けて教育振興基本計画を策定するものであるのでその作業を同時に出来ないものか、それをしたいという提案です。

山中総務課長 竹平委員より使える計画書と言う事で市民と協働で作ってもらいたいという事と、教育長より、計画について詳しい説明と、提案が出ておりますけれども、大綱をどうするかは(2)で協議をお願いします。  
教育委員会から振興計画の3つの進捗状況について説明がありましたが、宮地委員、その事について何かありますか。

宮地委員長 市の総合戦略、市の振興計画がありますが、教育をそれらにきちっとリンクをさせて市の計画を受けて教育大綱、教育振興計画がないといけないと、そうすると、教育の部分でどういう行政を進めていくか位置づけをきちんとしていくその事が必要ではないかと思ひます。  
それが教育と行政のマッチしている部分とちょっと違う部分がありますのでそこはきちっと整合性を取っていく、そのためには大綱を作り教育振興基本計画を見直してやっていくことが必要だと思ひます。  
我々教育に携わる者の一人として子どもが生まれて大人になってどういう街づくりをしていくのかどういう人材を育成していくのか、もっと大きな一本筋の通ったものがないとだめだと思ひます。それは、教育だけで進めていくことはできませんし、当然市長部局、教育、そして市民の皆様の協力をいただきながら作っていかなくてはいけないのですが、今現在進行している教育振興基本計画の中身は必要な事ばかりですので削る事はなかなかならん事になりますが、もう少しまとめてやってもらえないかと思ひます。それで1番の進捗状況に入らせてもらいますが、保育についてちょっとお話させてほしいと思ひますが、香美市は学校教育にはかなり力を入れており成果の方も上がってきていますが就学前、保育という部分がバランスを欠いているように感じていました。  
今日の保育の進捗状況を聞き、内容としてはいろんな事をやっているのではないかと思ひを新たにしたいのですが、ここをうまく整理をして学校教育へときちんとつないでいくことを認識をしながら体系化してもう一度考えていく必要があるのではないかと思ひました。なかなか難しい事ですが、子どもが生まれた時からスタートですから、年を経ることによって成長していく、そしてそれを

小学校にうまくつないでいく、そういう計画をきちんとする必要があるのかなと思います。

特に学校は学習指導要領ができていますのでそれに対して動いていますが、今度保育指針が改定されました。幼稚園教育要領も改訂されました。そうすると新しい視点で幼稚園も保育所もスタートしていかなければならない時期が来ていますので計画と共に実際にアクションを起こしていくよう手を付けていかなければと思います。

山中総務課長 ありがとうございます。教育振興計画、市の振興計画と総合戦略とのリンクしたものと保育、就学前から小学校へのつなぎのお話がありましたが、その点についてどうでしょう。

浜田委員 結果的に学校教育そのものは文科省の指導要領に基づいてやっていますので割合全国同じで特徴が出にくい面があるのですが、子育てとか生涯教育と言う部分についてはそういう基準がない。市を作る時にその部分が生活に密着した部分でもあるわけです。学校教育は学校にお任せとかいろんな分があるけど子育てとか公民館活動である部分はどうしても教育委員会だけではできない。結果的に街づくりになっていくので各担当課の方をお願いしてこの街をどうしていくんだという視点からぜひ、横の連絡を取りながら生涯教育そのものを作り上げていかななくてはいけないのではないかと思います。

山中総務課長 ありがとうございます。計画の整合性をもち、組織としても横の連携を取りながら、というようにお話でした。香美市の進捗状況についてのご意見はいただきましたので、②の「将来の香美市の姿」についてと言う事で、ここに項目を書いておりますが、計画の参考としてこういう事を話していただきたいということなのですが、今までのご意見以外でここに該当するご意見がありましたらお願いします。

竹平委員 教育の基本計画については一応計画の通りすすんでいると、裏を読むとあくまでも通常の家家庭の通常の子どもを前提とした計画となっていると思うんです。現実として、家庭環境や学習環境が厳しい子ども達があります。香美市の将来の形を考えていく時、行政の力、もっといえば政治の力になるかもわかりませんがこのあたりを含めて、進めていかないといけないと思います。子どもの問題となっている通常の学力を持った子どもの不登校とか進学の断念とかいうことがあります。行政としてもかなりの支援あるいは援助ができる部分もあるかと思うのでそういったところも含めた計画を進めていく上にお

いては加味してやってもらいたいと思います。一例を言いますと昨日学校訪問で鏡野中学校へ行ってきました。校長先生と話したのですが、子どもに支援を要する生徒が95名で率にすると25%で非常にきびしい状況を認めております。

香美市の将来を考えた場合、人づくりがメインテーマになろうかという機会もありやってもらいたいと思うところです。

厳しい環境、家庭にある子ども達に対しても行政も何だかの支援を講じていただきたいのとそれを加味しながら大綱を作っていただきたいというところです。

山中総務課長 ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

浜田委員 2つありまして、1つ目は街の姿と言う分で、香美市が合併して、子どもが減っています。物部地区などは、学級が一桁担っている状態で、そういうところに支援として、まちとしてそのままではなく新たな形を模索しながら、土佐山学舎的な事も考えながら、なんとかしていく、あらゆることを考えていただきたいと思います。それとは逆の部分で、野村証券の発表で新聞にも載っていましたが、10年後、20年後には50%ぐらいAI、ロボット化により職が失われていくという事が出ていました。高知市内にもセルフレジができています。レジを打つ人がいない、東京では品物を取った時点ですべて計算されて、スマホから引き落とされるという店ができています。初めのコンピュータ化は遅かったのですが、この10年はものすごい速さで追いつかない状態です。囲碁や将棋はもう叶わない状態になっています。

子ども達は、そういった環境の中で育ちますが、実際施策をうっているのが昭和の人間です。学校教育には両方が必要だと思います。ICTは先生より子どもの方が覚えが早く、アプリも作っていこうという時代ですが、けど自分たちの時代は、自然に対して自分達が経験をして、教育する必要はなかったが、今の子ども達は、実際地域と触れ合ったり、そういう事に関しては非常に苦手な部分があると思いますので、行政は両方の部分を持って進まない昭和の時代の視点だけでは、子ども達の考えかたは分からないだろうなど。香美市は、地域で「よってたかって教育」を掲げておりますので地域と交流できる人間をどうやって作っていくかという視点が必要になっていくんだろうなど経験をさせなくてはだめだと思います。

山中総務課長 ありがとうございます。他にはありませんか。



宮地委員長

児童クラブの件ですが、ハード面の整備は必要ですが、ソフト面、中身も大事でありまして、児童クラブの中でやる事も大切なことがあるのではないかと、集団の中で学んでいく大切な事もあるのではないかと思います。そうすると我々も児童クラブの重要性を考えなくてはいけない、当然行政としてハード面は改善していかなくてはいけないですが、ソフトをどういう風にしていくのか。この事についても後期の基本計画などで謳っていく必要があるのではないかと考えます。

それと、保育にALTが入っていますが、この辺も非常に大事な要素だと思います。保育から英語に親しむことによって、外国語に対する抵抗感がなくなってきます。これをうまく小学校につないでいくと更に充実できるのかと思いますし、いずれにしても就学前教育、保育については、振興計画にしっかり入れ込んでいって将来香美市の教育の充実を図っていくことが一p 必要になってきます。

法光院市長

非常にありがたいご指摘をいただいたと思っています。

保育については、行政はいままで福祉と言う分野で施すという立場で、保育にかける子ども達を福祉するという考え方でやってきましたけども、時代に合わせて考え方を少し整理をして、これからの将来の事を考えてやらなければならないと思います。具体的には学校教育へどうつないでいくかというところを、ポイントにしながらかやっていく必要があると思います。

そしてまた、放課後児童クラブは中身が大事だと思います。この中身をやっていく上でまず運営をしていく主体の人たちが、まずは集まっていたら、これからあるべき児童クラブについて議論していただく、同じ目線に立っていただいて不足している部分は何か、優れた部分はどこか、これからどこに力を入れていくのかという事を、合わせてやっていただきたいなというふうに思っています。同じ街の中に育っている子どもたちにとっては、それは大事なことだと思っています。特に子ども達のチャンス考えた時に施せる事を施しておかないと思います。国がやる事かもしれないと竹平委員はおっしゃいましたが、その通りとは思いますが。日本はそれほどでもないのですが、アメリカの場合は1945年から1975年、この30年間があつてその前と後ではずいぶん子ども達の状況が変わっていつている、恵まれた環境にある子どもと、恵まれた環境にない子どもが、教育が受けられるチャンスがあつたり、それによって生活が変わってくる、逆に恵まれた状況の子ども達が落ちる場合もあります。75年から後はだんだん固定化されている状況になってきている、希望が持てない社会になっている、こんな風になっていくと社会が疲弊していく、地域も疲弊していく元になっていくと思っています。

ですから、子どもにはきちんとした教育を受けられる環境、チャンスをあたえていくという事がこれから我々の地域にとって非常に大事なことになっていく、それらを含めて市の総合の計画とどう整合性を取っていくかやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

山中総務課長

ありがとうございました。

②の「香美市の将来の姿について」については意見が出たという事で(2)の次期計画に移らせていただきます。このことについては大綱の策定について教育長からも次期計画と合わせて作っていただきたいというお話もありました。各委員さんからは振興計画と教育基本計画との整合性が大事ではないかというようなご意見もございます。

また教育大綱につきましては、平成27年5月26日の第1回目の会において

「教育振興基本計画を大綱とする」という事で平成30年度までは、それを大綱にするというお話になっておりましたし、国の方からも教育振興計画ができておればそれを大綱とすることができるとなっており、市長からも市の計画と整合性を取るよにとのお話もありましたけれども、今後大綱を作っていくのかどうかという事含めて話をお願いします。

法光院市長

整合性と言うのは、議会の問題だと思つるので、そのねじれが起こらないようにお互いが十分話をしていけばいいと思つています。まったく同じ文言を使うとかいうのではなく、物の考え方や理解の仕方をするのに離れた事をしないようにしようという事です。

振興計画を作る時にすべての部署から集まって意見を出していただいて作っておりますので、現在の振興計画と教育委員会策定している教育基本計画とは整合性がとれていると理解しておりますけど。

結果的に寄せ集めでやっているの、意識は縦割です。

全体を基盤として俯瞰できてその上でみなさんがそれぞれ縦割になるのはいいけれども、それぞれの専門部署として担当が出してそれで終わった、文章を起こそうではなく、市がこれからどうやって発展していくんだという視点で教育や何もかにもみんなが考えたうえで専門のところだけでなくいろんな部分で理解の上で立っていたら構いません。

浜田委員

教育の話をしていますが、教育の話はつまるどころ将来の話を、未来の話をそのいう意味で一方の街の未来とは重なって来ますよ、そこにねじれがあつてはいけませんよという事ですから、十分整合させてやっているとは分かるけれども、やはり私達が今、議論しようとしている事は未来の事、非常に長いスパン

の未来をやっていますので街の総合計画よりもっと長い計画かもしれませんね。

宮地委員長 昨日、鏡野中学校に訪問してきました。  
中学校3年生のキャリア教育の一環で「30年後の姿」を勉強しています。  
今15歳ですから、30年後で45歳、立派な中堅のおじさん、おばさんになっていますよね。その30年後を見据えてどうあるんだろうと一生懸命勉強しています。子どもが一生懸命勉強しているのですから、大人もぜひとも良い物を作っていかななくてはいけないと思います。

法光院市長 言われるように30年先を考えている一方で、15年先には今ある仕事の50%がロボットと、人工知能に替わっていくという事ですから、行政だって、今、市役所の中にどのくらい人が残っているかどうかわかりません。  
そういう時代になっていくのですから、子ども達の将来を議論していくという事は、私達が想像もつかないところを頑張ってもらえる人達を育てるための話ですので、そこのところを我々はもっと先々考えてやらなければならない。  
もしかしたら私達は分からないところを議論しているかもしれません。  
そういう思いで謙虚にやっていくしかないんだと思います。

山中総務課長 まだまだ、ご意見はあると思いますが、大方の意見は大体いただいたと思います。大綱について、整合性は取らなくてはならないという市長のお話でございます。一方、大綱については市長が判断するという事になりますのでよろしくお願ひしたいと思います。  
(2)の議題については終わりたいと思います。その他の意見はありませんか。  
ないようですので、これで平成29年度第1回総合教育会議を終わります。